

豊かな地球を次世代へ

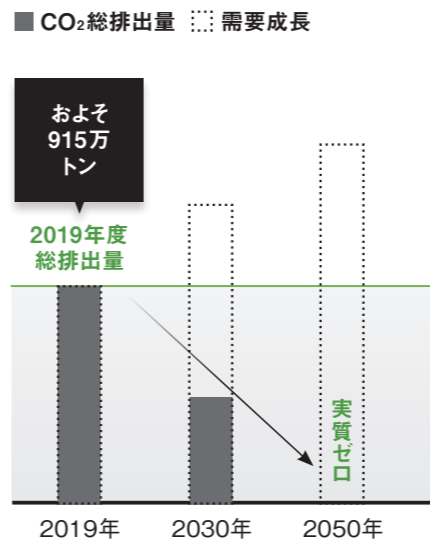
CO₂ 排出量実質ゼロを目指す

JALグループは2050年までにCO₂排出量実質ゼロを目指しています。省燃費機材の導入、新たな燃料へのチャレンジ、日々の運航での工夫など、その具体的な取り組みをご紹介します。

取り組みの柱は4つ



2050年までに実質ゼロへ



気候変動への対応の4本柱

二酸化炭素(CO₂)の排出なしには飛ぶことのできない現代の航空機。このCO₂は地球温暖化の大きな原因といわれています。航空運送事業を担うJALグループの責務として、気候変動への対応は、最重要課題であると考えています。

2020年6月、JALグループは「2050年までにCO₂排出量実質ゼロ」を目指すことを発表しました。

この目標を達成するために、①省燃費機材への更新、②バイオジェット燃料の開発促進と活用、③日々の運航での工夫、④排出量取引への対応という4つの柱を立て、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。

具体的な取り組み

省燃費機材とは、2019年

に国内線に就航したエアバスA350型機や、2012年から導入しているボーイング787型機といった、燃費のよい航空機のことを指します。従来機と比べてCO₂排出量を15〜25%程度削減することができ省燃費機材。これまでの計画的な導入で、JALグループ全体での2019年度末時点の省燃費機材保有率は、全機材の83%程度になっています。今後も省燃費機材への更新を進めていく予定です。

燃料の質を変える取り組みも行っています。現行の化石燃料に比べ、CO₂排出量を大幅に削減できる「バイオジェット燃料」の実用化に向けて、米国の会社への出資や、国産バイオジェット燃料の製造への挑戦など、積極的なチャレンジを続けています(国産バイオジェット燃料については本誌10ページ「JAL



定期的なエンジン洗浄で、燃費の維持向上を実現。

運航方式の工夫で、CO₂排出量を削減。

JALが取り組む新しい空への挑戦」をご覧ください。

日々の運航での工夫も欠かされません。正確な積載量の算出と燃料搭載、空気抵抗を減らす運航方式や飛行ルートの策定、一部の空港での連続降下方式によるスムーズな着陸、地上での片側エンジン停止、定期的なエンジン洗浄、夏場の日よけ活用による機内の温度管理など、さまざまな工夫が、一便一便のCO₂排出量を左右します。

世界規模での連携

2020年10月、JALグループは日本経済団体連合会(経団連)の「チャレンジ・ゼロ」にも参画し、具体的な取り組み

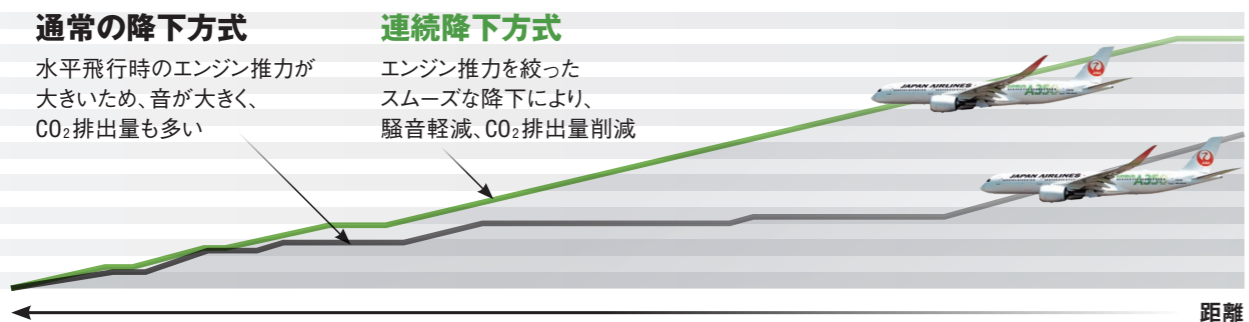
を公表しています。これに先駆けて2020年9月には、JALが加盟する「ワンワールドアライアンス」も、航空連合として世界で初めて、2050年までにCO₂排出量実質ゼロを目指すことを発表しました。日本全体、世界全体でベクトルを合わせて温暖化問題に取り組むことで、この地球規模の危機にようやく向き合えるのです。JALグループはこれからも、全社的な取り組みに加え、世界との連携、今後発明・開発される技術の積極的な導入や、排出量取引の仕組みも組み合わせながら、CO₂排出量実質ゼロを実現し、豊かな地球を次世代に引き継いでまいります。

あなたにもできる温暖化対策

JALグループは企業としてのCO₂削減の取り組みに加え、お客さまにもご参加いただける「JALカーボンオフセット」の取り組みを2009年より行っています。左記のWebサイトにアクセスし、発着地を入力すると、そのフライトで排出されたCO₂相当分の間伐推進プロジェクト(熊本)や、森林破壊防止プロジェクト(インドネシア)への資金援助が可能です。

ご協力いただいたCO₂削減量につきましては、JALグループではなく、お客さま個人、または企業/団体のCO₂削減量としてカウントされます。地球のために、この「JALカーボンオフセット」もご活用ください。

www.jalblueedgegreen.co.jp/jp/home



今回のテーマに該当する目標

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
13 気候変動に具体的な対策を
17 パートナリシップで目標を達成しよう

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいます。